

西藤島小だより



☆学校教育目標『自主と創意に満ちた人間性豊かな児童の育成』
☆目指す児童像「学ぶ子」「やさしい子」「強い子」
福井市三郎丸1丁目1410 TEL (0776) 22-8820 FAX (0776) 22-6809
<http://www.fukui-city.ed.jp/ni-fuji-e/> E-mail: ni-fu-e@fukui-city.ed.jp

平成29年10月31日発行
No6
福井市西藤島小学校

全国学力・学習状況調査の結果について

今年度4月18日に実施された全国学力・学習状況調査（全国学力テスト）の集計結果が、このほど公表されました。結果は以下の通りです。（単位 %）

	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B
全国	74.8	57.5	78.6	45.9
県	78.0	60.0	82.0	54.0
市	79.0	62.0	83.0	55.0
西藤島小	77.0	53.0	81.0	48.0



	質問事項	全国	県	本校
良い点	友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞く事ができますか	60.1	64.2	88.9
	友達と話し合うとき、友達の考えを受け止めて、自分の考えを持つことができますか	42.5	44.0	58.3
	自分には良いところがありますか	38.6	45.9	52.8
	1日当たり1時間以上メールやインターネットをしていますか	20.5	21.8	16.6
	家の人と学校での出来事について話しますか	50.6	47.8	63.9
	家で学校の授業の予習をしていますか	16.3	27.4	77.8
	学校に行くのは楽しいですか	55.4	55.9	77.8
	学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことはありますか	60.8	65.9	94.4
	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	47.3	52.3	86.1
	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれますか	50.5	59.4	88.9
改善を要する点	普段、1日当たり30分以上読書をしますか	36.5	35.1	19.5
	新聞を週に1~3回読んでいますか	21.0	30.5	13.9
	テレビやインターネットでニュースを見ますか	54.5	52.7	44.4
	読書は好きですか	49.0	44.1	19.4

本校では、毎日の子ども達の活動の様子や学習状況、保護者や地域のご意見をもとに、どのように子ども達を育成していくのかを教職員全員が話し合い、共通理解のもとで教育活動を進めています。今回の全国学調の結果についても、しっかりと分析しながら今後の教育活動の方向性を決める材料としていきます。今後とも保護者・地域の皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。

子どもが主役 ～秋季校内体育大会～

爽やかに晴れ渡った秋空のもと、9月29日（金）に秋季校内体育大会が行われました。今年は「空前絶後の熱き運動会 力と心を一つに最高のスマッシュを決めよう！」というスローガンのもと、力強い運動会となりました。

運動会というと、色別に分かれて走り、跳び、引っ張り、など競うことに力が入り、どうしても走るのが速い子、運動の得意な子が主役となりがちです。でも、運動会にはもう一つ、大切な意味があります。それは子どもたち、特に5、6年生が活躍する場があるのです。

先ほどのスローガン作りもそうですが、西藤島小の運動会は、「子どもたちの手で作り上げる」運動会です。応援のアイデア、スローガン決め、開閉会式の進行、様々な準備、後片付け、決勝、得点、表彰、アナウンスなどなど、数えだしたらきりがなくらいの仕事（役割）がありますが、全てにおいて子どもたちが関わり、考えを出し合い、そして役割を決め、その役割を責任を持ってしっかりと果たす。運動会には、子どもたち一人一人の「その子にしかできない」役割があります。つまり、運動会を進めるにあたって、子どもたち一人一人は「なくてはならない存在」なのです。



フリートークコーナー



～新しいコースから見つけたもの～

例年秋に行われている校内マラソン大会。今までは日野川の堤防をコースとして走っていましたが、強い風で大会運営にも支障をきたしていたことから、今年から西堀町自治会や三郎丸西町自治会、三西ファームの皆様のご協力をいただき、西堀町のたんぼの周りをコースとさせていただきました。

やってみると、いい点がいくつも見つかりました。道幅が広がったので、スタートするとき転倒する子がいなくなりました。近くに学校や公園もあるので、簡易トイレ設置などをする必要もなくなりました。体調のすぐれない児童のため

の救護テントも、公園が近くにあるので特に設置の必要がなくなりました・・・などなど。

そんな中で私は一番素晴らしい点を見つけました。それは、スタートからゴールまで、ずーっと子どもたちの走る姿、頑張っている姿が見られることです。

ある学年のマラソンでの事でした。その学年には特にマラソンが苦手な子（男子）がいます。男子が一斉にスタートしてから3分後、女子がスタートするのですが、トップの女子が早々とその子を抜き去ります。次の女子にも、そのまた次の女子にも・・・マラソンコースの3分の2が終わるあたりで、ついにその子は全員の女子に抜き去られました。ただでさえ苦しいマラソン。加えて後からスタートした全員の女子に抜かれるのです。きっと辛かったでしょう。きっと悔しかったでしょう。でも、その子は走り続けました。一度も歩くことなく、止まることなく。決して速くはありませんが、一步一步自分のペースを守りながら黙々と最後まで走りきりました。その子の闘う相手は他の男子でも女子でもなく、今までの自分との闘いだったのでしょ。ゴールの間際には、走り終えた男女全員がゴール手前まで出てきて、その子と一緒に伴走しながら力いっぱい声援を送り、一緒にゴールした瞬間大歓声をあげていました。鳥肌が立つくらい感動的なシーンをその子は見せてくれました。

これまで、日野川の堤防をコースとしていたときには、スタートした後は子どもたちの様子が遠く離れ、一旦視界から消えます。なので、途中の児童の頑張りや、抜いたり抜かれたり様子の全ては分かりませんでした。今年コースはそんな児童の姿を全て見せてくれました。いつも口している言葉ですが、また一つ、子どもたちから教えられました。

お詫びと訂正

西藤島小だより第5号（9月21日発行）の「フリートーク～連体選手～」の文の中で、「・・・日本中を湧かせた『桐生祥秀選手』・・・」は「・・・日本中を沸かせた『桐生祥秀選手』・・・」の間違いでした。お詫びして訂正します。